

2019年7月12日 11月22日補足

中国・ベトナムの漢文文献の中の南シナ海方面の記述について 補遺 30

嶋尾稔（慶應義塾大学言語文化研究所）

1 1930年代の前半と後半でスプラトリー諸島についての中国人の認識が大きく変わること
を次の地図帳の初版と改訂版を比較することでさらに確かめることができる。

陳鐸『中等学校適用表解説明新製中國地圖』上海：商務印書館
（中華民國二十三年〔1934〕八月初版）
（北海道大学図書館所蔵本）

陳鐸『中等学校適用表解説明新製中國地圖』上海：商務印書館
（中華民國二十五年〔1936〕七月修訂再版）
（慶應義塾大学三田メディアセンター所蔵本）

これらの地図帳には「中國疆域變遷図」とその解説が含まれている。その地図の方を見ると、新旧二重の虚偽的国境線を書き込んだタイプの地図であり、インドシナ半島 英領マラヤを包含する旧時国境線は1934年版も1936年版も同じであるが、南シナ海を含む海上国境線は微妙に異なっている。1936年版のそれが、ボルネオ島北部あたりまで伸びていて、現実のスプラトリー諸島全体を含み、その島々を団沙群島と呼んでいるのに対して、1934年版の方は、パラワンの西側あたりまでしか含んでおらず、そこに描かれた稚拙な島影が瓊南九島と呼ばれている。また、1936年版にはマックルズフィールドバンクが描かれていて南沙群島と記されているのに対して、1934年版にはマックルズフィールドバンクは描かれていない。前者が団沙群島及び南沙群島という水陸地図審査委員会の指定する名称を盛り込んでいるのに対して、後者は、1933年夏の時点で報道されていた不十分な情報を元に適当に島を9つ描いてみただけのものである。つまり、1934年8月刊行の地図の準備段階において、それなりに博学だったと思われる地図製作者の陳鐸でさえもスプラトリー諸島が如何なるものであるか、全く分かっていなかったことを示している。全く知らない地理的空間に対する領土の主張が強硬になされ、それが30年代後半に地図の上で確定されてつつあったということがこの二つの地図の描き方の変化から窺うことができよう。1936年版の地図の上の海上国境線は、白眉初の地図の海上国境線と並んでU字線の淵源と言えるものであろう。陳鐸の地図の方がおそらくより普及した地図であろうと思われる（日本でも複数の図書館で見られる）ので、こちらの影響をむしろ考えるべきなのかも

れない。ただし、陳鐸の地図は James Shoal を含んでおらず、1947 年の「南海諸島位置図」により近いのは白眉初の地図の方である。

地図の解説部分についてみると、1934 年版も 1936 年版も同じである。

【瓊南九島】在我國西沙群島之東南約三百五十海里。處北緯十度至十二度東經一一五度之間。西人總名其為狄周班克 (Tisard Bank and Reebbs)。各島之總面積約一百二十公頃。中國南海與南洋各地交通之要衝。島上富磷礦及鳥糞肥料等。閩粵漁民時往其地捕魚、久爲我國領土。民國二十二年四月爲法國佔領。

この解説では、いまだスプラトリー諸島全体は意識されておらず、団沙群島の名称が用いられていない。フランス占領以前から久しく中国領土であると称しているが、その範囲はスプラトリー諸島の一部を含むのみである。1936 年版においてもそのまま変更が加えられなかったこの解説部分は、水陸地図審査委員会の新情報にもとづく地図部分と明らかに齟齬をきたしている。地図部分だけを拙速に書き換えた印象である。

また、それぞれの地図帳が載せる中国政区図及び広東省の地図を比較すると、1934 年版では、二つの小さな囲みの中にそれぞれ西沙群島と瓊南九島が描かれている。1936 年版では、西沙群島が一つの小さな囲みの中に描かれ、南沙群島と団沙群島が別の小さな囲みの中に描かれている。

広東省の地図の解説部分（自然形勢 [海岸]）も 1934 年版と 1936 年版で変化はない。

東沙群島在香港東南、爲南洋航線所必經。西沙群島在海南島西南、均爲我國海防上之要地。其東南有九小島、爲我國最南之國界、今則法所佔領。

1936 年版の解説部分は古い情報のままであり、地図の描写と齟齬をきたしている。

2 1934 年に上海において刊行された別の地図帳が上とは異なるタイプの南シナ海認識を示している。

童世亨原著・陳鎬基校訂『中学適用 中國形勢一覽圖 附説』上海：商務印書館
(中華民國二十三年 [1934] 十二月國難後第一三版)

このなかの中華民国全図と広東省図にパラセル諸島とスプラトリー諸島が描かれているが、スプラトリー諸島が「堤沙淺洲群島」という独特の名称で呼ばれている。スプラトリ

一諸島の北側を指す **Tisard** の音訳であろうが、上の地図の解説部分で採用されている音訳表記とは異なる。この当時の地図製作関係者のスプラトリー諸島認識の混乱を示すものといえよう。広東省の解説部分には次のようにあり、やはりこの名称が使われている。

西沙群島在榆林港東南赤道北十六度附近。以羅弼魔壳琛航三島爲最大、以特里屯島爲最南。上産椰樹、周多灘、漁船停泊其間。礁石出沒、難行巨艦。其南有堤沙淺群島、即華南九小島、乃我國極南國界、向有我國漁民居住、近被法人佔據、交涉未解決。

なお、この地図は幾度も版を重ねているが、私が見た下記の 1920 年代後半のものには、勿論スプラトリー諸島は全く描かれておらず、パラセル諸島も中華民国全図にのみ描かれていて、広東省図には描かれていない。

童世亨『中学適用 中國形勢一覽圖 附説』上海：商務印書館
(中華民國十三年 [1924] 三月増修十八版)

童世亨著・陳鎬基修訂『中学適用 中國形勢一覽圖 附説』上海：商務印書館
(中華民國十六年 [1927] 十月増修二十一版)

解説部分には次のようにある。

西沙群島在榆林港東南赤道北十六度附近。以羅弼魔壳琛航三島爲最大、以特里屯島爲最南。上産椰樹、周多灘、漁船停泊其間。礁石出沒、難行巨艦。然爲我國極南界、未可輕忽視之。

1920 年代後半にパラセル諸島が国土の南端とされていることをここでも確認できる。